

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

医療事故・有害事象の把握手法に関する研究

（H25-医療-一般-003）

平成 25 - 26 年度

総合研究報告書

2015 年 3 月

研究代表者

長谷川 友紀

東邦大学医学部社会医学講座

研究組織

研究代表者	長谷川友紀	東邦大学医学部社会医学講座
研究分担者	飯田 修平	公益社団法人全日本病院協会
	西澤 寛俊	公益社団法人全日本病院協会
	北澤 健文	東邦大学医学部社会医学講座
研究協力者	松本 邦愛	東邦大学医学部社会医学講座
	藤田 茂	東邦大学医学部社会医学講座
	瀬戸 加奈子	東邦大学医学部社会医学講座
	伊藤 慎也	元東邦大学医学部社会医学講座
	吉田 愛	東邦大学医学部社会医学講座
	小谷野 圭子	公益財団法人東京都医療保健協会 練馬総合病院
	長谷川 英重	OMG アンバセダ

はじめに

医療の質と安全の確保は先進各国において重要な政策課題である。有害事象の様態別発生頻度を客観的な数値により明らかにするために、電子化された診療録情報や診療報酬請求情報の活用が注目されている。

我々は、米国 AHRQ (Agency for Healthcare and Quality) が開発した患者安全領域の臨床指標である PSI (Patient Safety Indicators) が、DPC/PDPS (Diagnosis Procedure Combination/Per-Diem Payment System) データからも算出可能であることを明らかにしてきた。

本報告書では、平成 25、26 年度に実施した以下の研究成果を取りまとめた。1) 米国医療制度改革の概要と、ACO (Accountable Care Organization)、EHR (Electronic Health Record) の「意義ある利用 (Meaningful Use : MU)」等の動向。2) 周術期ケアに関連する PSI と手術件数との関連。3) DPC/PDPS データから算出した PSI と AHRQ が公開しているベンチマークデータとの比較可能性の検討。4) 周術期ケアに関連する PSI と医療安全対策加算算定状況との関連。

米国医療制度改革の特徴の一つが ACO であり、医療提供者、保険者の協同により、良質なケアの提供と費用の削減の実現がともに試みられている。削減された費用を原資にしたインセンティブ付与、ケアの質と費用削減を計測するための指標の確立と標準値 (レファレンスデータ) の公開等がすすめられている。

一方、日本国内でも臨床指標の開発がすすんでおり、複数の全国規模の病院団体が臨床指標の測定と公開を行い、医療の質向上に取り組んでいる。また今後は、ビッグデータを分析し、その結果を活用しようとする動きが本格化すると考えられる。本研究の知見が、今後の医療の質向上に寄与することを祈念する。

研究代表者
長谷川 友紀